

笑顔発信!

おおまき小



子どもの話を最後まで聴くとは

学校で先生に相談したり、家庭で親に悩みを打ち明けたり、または友だちに聞いてもらったりしている子どもがいる一方で、悩みを誰にも相談できず、自分一人で抱え込んでしまっている子どももいます。

子どもたちが安心して悩みを相談したり、助けを求めたりできるようにするには、どうしたらよいのでしょうか。

今年度5月22日に「令和7年度 深めよう絆にいがた県民会議 第1回総会」が新潟市で開催されました。総会後には、以前、魚沼市で小学校長を務められていた早稲田大学の伊佐貢一客員教授が「人と関わるスキルを育てる～ソーシャルスキルを意識して～」という演題で講演を行いました。講演の中で伊佐様は、「真摯にこどもの話を聴くことが、こどもたちのヘルプシーキングスキル（助けを求めるスキル）を引き出す。」と話されました。

伊佐教授が講演の中で示された「話を聴くスキル」を紹介します。



- 1 最後まで聴こうと自分に言い聞かせる
 - ①こどもの話を最後まで聴く
 - ②話題を変えない、話題を取らない
 - ③話の途中で道徳的、倫理的判断を口にしない
 - ④こどもの感情を否定しない
 - ⑤時間の圧力をかけない（「〇時まで」「何分ぐらいなら」、時計を見るなど）
- 2 反射させながら聴く（うなずき、相槌など）
- 3 体を使って聴く
- 4 子どもの身振りをよく見る
- 5 話を受け入れ、感謝する（「話してくれてありがとう」「よく話してくれたね」）
- 6 共感を示す（「つらい思いをしたんだね」「悲しかったんだね」）
- 7 話題に関連した質問をする
- 8 自己開示の返報性を使う（自分が自己開示すると相手も情報を明かしてくれる）



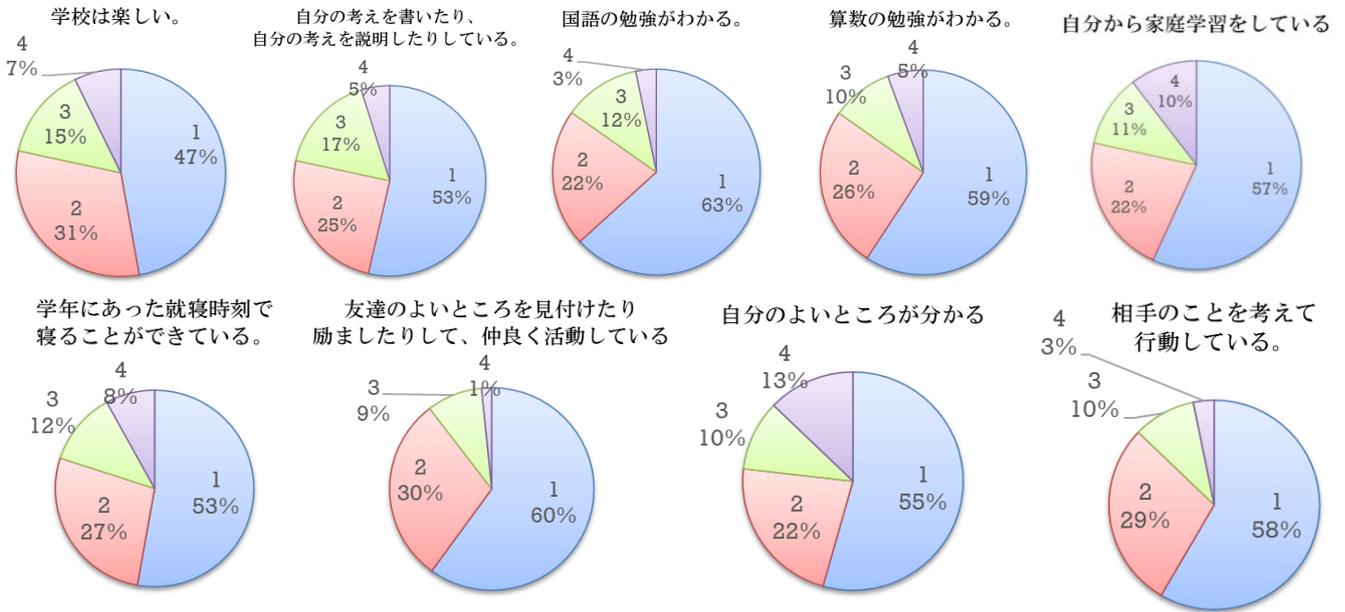
保護者の皆様には、スマホを操作しながら話を聴いたり、子どもが話している途中で「それは違うよ。だって…」と大人が自分の考えを話し始めたりする方はいないと思います。このような態度で話を聴かれたら、子どもは二度と悩みを打ち明けたり、相談したりしなくなってしまいます。

話を最後まで聴くことは、簡単なようで難しいです。しかし、おおまき小教職員や保護者の皆様を含め全ての大人たちが、子どもの話を最後まで聴くようにしたいものです。

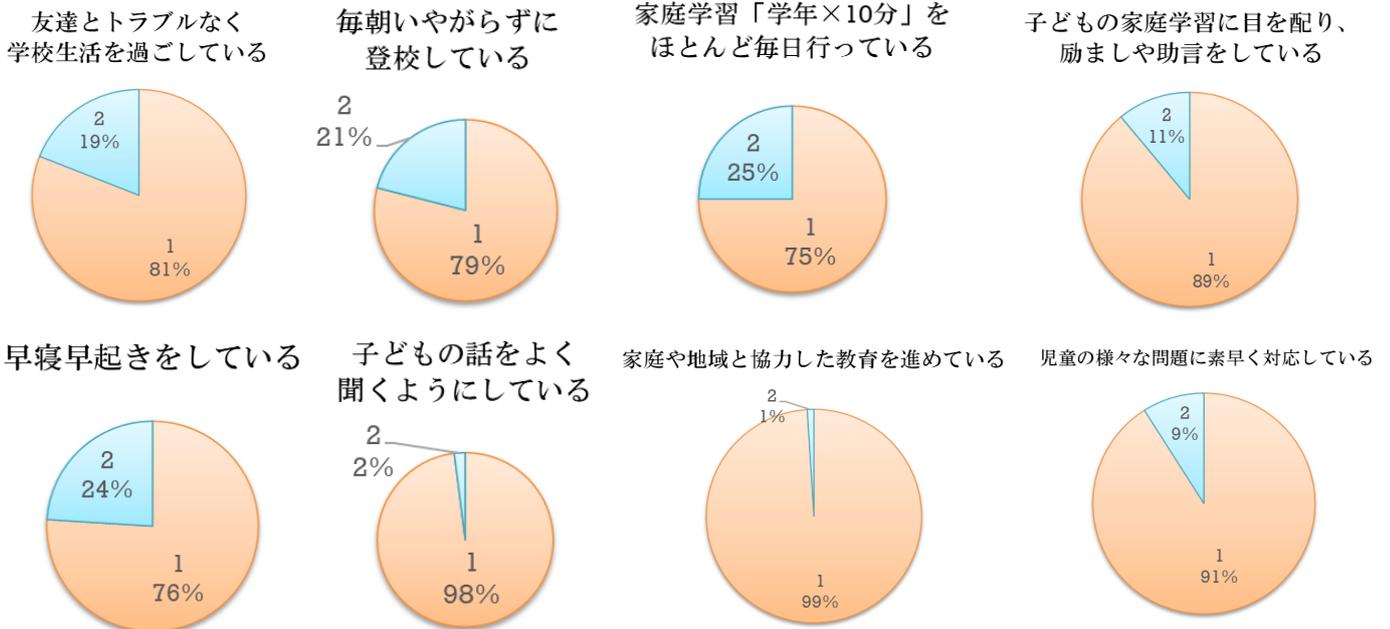
アンケートへのご協力ありがとうございました

7月に実施した「保護者アンケート」では、ご多用の中、ご回答いただきありがとうございました。同時期に実施した「児童アンケート」と併せ、結果をお伝えします。

【児童アンケート】 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない



【保護者アンケート】 1 はい 2 いいえ



児童、保護者アンケート共に質問項目は上記以外にもありましたが、2つのアンケートでリンクしているものを抽出して掲載しました。保護者の皆様からは日頃からお子さんの話をよく聴き、励ましや助言、声掛けをしていただき感謝いたします。どの質問についても、数値的には80%前後と肯定的評価は高いですが、「自分のよいところが分かる」「クラスは協力している」の項目が昨年度より数ポイント減少しています。各クラスで楽しく関わったり賞賛し合ったりする活動を積み重ね、【温かく居心地のよい学級集団づくり】に努めてまいります。

学校HP 毎日更新再開します

こちらのQRコードから→



2学期も引き続き、日常の授業の様子をはじめ、「元気いっぱい やる気いっぱい」な子どもたちの姿や学校の取組等は学校HP「学校日記」に掲載します。ぜひ、ご覧ください。